

現代ギリシア語の諺についての一考察

—素材「動物」が使われている諺について—

浮 田 三 郎

1 はじめに

現代ギリシア語の諺集を見ると、様々な事物が引き合いに出されて、色々な比喩表現が形成されている。以前にも述べた(浮田、1988)が、よく使用されている素材には、名詞では「女、水、家、火、山羊」など多くの興味あるものがあった。

そして、それらの素材のなかで、「山羊、豚、狐、牛、狼」などの「動物」が素材として使われている諺も多く、興味を引かれるものが多いようである。動物は、人間との関わりの中で、また人間社会の中で、良き友であったり、危険な敵であったり、有害であったり、嘲笑的になったりしてきた。そうして、色々な意味で、適当な場面で、比喩の対象に使われてきたのであろう。

そこで、本稿では、諺の中にどのような「動物」がどの程度使用されているか、またそれらの素材はどのようなイメージで、どのような比喩表現に使用されているかを、Rohlf's, G., Italogriechische Sprichwörter in linguistischer Konfrontation mit neugriechischen Dialekten, München, 1971 と Μιχαήλ, Μαρτίνα-Δέδε, 2500 Ἑλληνικές Παροιμίες (καί Λεγόμενα), Ἀθήνα, 1981 の二つの「諺集」の諺中によく使用されている素材とそれらの素材が使用されている諺に焦点を当てて考察してみる。

2 諺中の素材「動物」の使用頻度

さて、諺中にどのような「動物」がどの程度使用されているかは、上記のRohlf'sの諺集の500の諺中によく使用されている素材(単語)を調べてみると(浮田、1988, p. 61の表参照)、使用頻度の高い順番に見て、上位40位ぐらいまでに、「動物」を表す素材は、「山羊」(γίδα, κατσίκα, τράγος)、「ろば」(γαϊδαρος, γαϊδούρ)、「狐」(άλεπου)、「豚」(γουρούνι, γουρούνα)、「牛」(βόδι, βόδιε)、「狼」(λύκος)、「犬」(σκυλί, σκύλος)、「猫」(γάτα, γάτος)、「馬」(ἄλογο)、「鶏」(κότα, κόττα)、「羊」(προβατίνα, πρόβατον)の11種の素材が使用されており、確かによ

く使用されていることが分かる。

そこで、その外の動物を表す素材についても、同諺集の中に使用されている動物を表す素材（ここでは名詞）を調べて、その出現数を表にしてみると、右表のようになる。但し、諺中に使用されている動物を表す素材の出現数とそれらの素材が使用されている諺の出現数は、一つの諺中に同じ素材が二つ以上含まれることがあるから、必ずしも一致しないが、そんな例は希であり、ほとんど問題はない。また、一つの諺中に動物を表す異なった素材が二つ以上使用されている諺は、いくつか見られ、したがって、表に挙げた素材使用諺数の数値は、延べの諺数である。

この表から、諺総数に対する動物を表す素材の出現率を算出してみると、それは、26.7%で、かなり高い出現率であることが分かる。Michail, 1986では、動物はそれぞれの特徴的な性格故に民衆にとって比喩表現の格好の対象になったといったことが言及されているが、そのことは、この表とここでの「動物」の出現率を見ても、よく分かる。

また、これらの「動物」の中では、「牛」、「鶏」、山羊、ろば、豚、羊、馬などの家畜が非常によく使用されていることも分かる。ちなみに、これらの家畜（鶏も含めて）の使われている諺の出現率は、14.4%で、これは、「動物」が使用されている諺総数に対しては、51.8%に当たる。これは、ギリシア人が日常の生活の中でこれらの家畜とよく関わり合い親しんできたことを物語っていると考えるとよいであろう。そして、このような「動物」が人々の生活の中に融合しているような民衆の生活様式の一部を

表1 Rohlf's(1971)の500の諺中の素材「動物」の使用回数

順位	項目(素材)	ギリシア語素材	回数
1	牛 (雄牛) (雌牛) (雄牛) (子牛)	βόδι, βόδι γελάδα ἀγελάδα μοσκάρι	14 (8) (3) (1) (2)
2	鶏 (雄鶏) (老雌鶏) (親鶏) (雛) (雄鶏) (雌鶏)	κότα, κόττα τερόκοτα κλάσσα κλωσσόπουλο κόκορας πετεινός	13 (8) (1) (1) (1) (3) (1)
3	山羊 (山羊) (雌山羊) (仔山羊) (仔山羊) (雄山羊)	γίδα κατσικά κατσικάκι κατσίκι τρένος	12 (8) (2) (1) (1) (2)
4	ろば (ろば) (ろば)	γάιδαρος γαϊδούρι	9 (8) (1)
4	豚 (豚) (小豚) (雌豚) (雄豚)	γουρούνι γουρουδάκι γουρούνα χοίτρος	9 (4) (2) (2) (1)
4	羊 (羊) (雌羊) (仔羊) (仔羊) (仔羊) (雄羊)	προβάτον προβατίνα άρνικι άρνι κρίαρι λύκος	9 (3) (3) (1) (1) (1) (1)
7	狐	άλεποθ	8
8	狼	λύκος	7
8	犬 (犬) (犬)	σκυλί σκύλος	7 (5) (2)
8	猫 (雄猫) (猫)	γάτος γάτα, γάττα	7 (4) (3)
11	馬	ἄλογο	6
12	鼠	ποντίκι	4
12	鳥	πούλι	4
12	魚	ψάρι	4
15	蠅	μύγα, μυίγα	3
15	蛙 (蛙) (雌蛙) (蛙)	βάτραχος βατραχίνα κούβακας	3 (1) (1) (1)
15	ふくろう (ふくろう) (アメリカ) (アメリカ)	κουκουβάγια μψούφος χοχλάκι	3 (1) (1) (1)
18	蜂	γκιάνης	2
18	蜂 (雄蜂) (雌蜂)	μερμήγκι κροφόν σοφίς	2 (1) (1)
20	豚 加佐鷲 鳥 鷓鴣 鳥 燕 バツク コオロギ トカゲ 鱈 蠅 シラミ 蚤	λαγός γεράκι καρακέφα κόρακας πετρίτης χεριδόνι ἀκρίδα τριτόνι γουστέρα σαλιγγάρι χελώνα φείτρα ούλλος	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
合計			59 139

類うことができるであろう。このことは、日本の諺の場合と比較対照してみると、さらに興味深い考察ができる（詳しくは、浮田、1989を参照）。

ところで、Μιχαήλ, 1981の中では、特に動物が素材として使われている諺が列挙されている。そこで、大ざっぱにはあるが、それぞれの素材項目別に挙げてある諺の数を調べて、よく使用されている「動物」から順に並べてみると、右の表のようになる。但し、この表の数値は、それぞれ項目別に挙げてある諺数であり、一つの諺に二つ以上の素材が使用されている諺があるので、それぞれの素材が使用されている真の諺数ではない。

表2 Μιχαήλ(1981)の特集「動物」の諺中の各「動物」別の「動物」使用諺数

順位	素材(項目)	ギリシア語素材	回数
1	狼	λύκος	11
2	うば	γάιδαρος	8
3	牛	βόδι, βουβάλι, τωα	8
3	雄猫	γάτα, γάττα	8
8	豚	γούρουνι	4
8	狐	άλεπού	4
8	鴉	σκότο	4
8	郭公	κούκος	4
8	兎	λαγός	4
8	羊	πρόβατο	4
8	蛇	φίδι	4
8	魚	ψάρι	4
13	鷺	άετός	3
13	仔羊	άρνι	3
13	鳥	κόρακας	3
13	犬	σκύλος	3
	その他		18
合計	(項目数) 28		88

また、上の二つの表を比較してみると、このように二つの諺集に比較的頻繁に使用されている「動物」には共通なものが多いことが分かる。このことは、これらの「動物」が幅広くギリシアの人々に比喩表現の中で使用されていたことの証明にもなるであろう。

また、ギリシア人がこれらの「動物」が使用されている諺をどの程度知っているかに関して、本国のギリシア人に対して行ったアンケート調査の結果(1988年)では、これらの諺はかなりよく認識されている。

3 素材「動物」のイメージと比喩表現

それでは、次に、これらの諺の素材としての「動物」は、どのような比喩表現に使用されているか、それらがどのようなイメージで使用されているかを、Μιχαήλ, 1981に挙げてある諺の中から、引き出してみよう。

但し、今回は表2に挙げてある順序で、上位にある「動物」を選んで、それらが使用されている諺のいくつかを見てみよう。

1) λύκος「狼」

まず、一番よく使われている「狼」について見てみると、

(1) Άλκος πεινασμένος πρινάρι τρώει.

空腹の狼はうばめがしを食べる。

(2) Πεινώ σαν λύκος. (Πάρα πολύ).

狼のように空腹だ。

(3) Λυκο γιατί είσαι χοντρολάιμης; Δέν όκνεύω καί χοντραίνω.

狼さん、どうしておまえは喉太なの。僕は怠けないので太るのだ。

などのように、空腹で、したがって何でも食べようとする狼のイメージが使用されている。また、それ故、飢えているからこそ恐い動物と言うことになるのであろう。しかし、ここに出てくる狼は腹をすかした、「うばめがし」のようなものでも何でもいから食べようとする、むしろ見窄らしい狼の姿が見えるようである。ここにはなかったが、「狼のように食べる」と言う表現もあり、これは、非常によく食べる人に対する比喩表現として使用される。

しかし、

(4) Λυκος λυκο δέν τρώει.

狼は狼を食わず。

(5) 'Ο λυκος τή φωλιά του δέν τή μαγαρίζει.

狼は自分の卵を汚さず。

のように、(1)、(2)とは矛盾するようだが(このように諺の世界では、相矛盾する諺が共存することは、外山慈比古、1983にも述べられている)いくら腹がすいても、仲間を食べたりはしない、仲間意識の強い狼のイメージも使用されている。そして、これは、悪いことをする仲間達がお互いをかばい合うときの比喩に使用されるようである。これと同様な使われ方をするものに、

(cf) Κόρακας κοράκου μάτι δέν βηάζει. 「鳥は鳥の目をほじ繰り出さず」

というのがあがるが、狼も鳥と同じレベルで使用されているとすれば、狼のイメージダウンである。

また、悪党のイメージでは、

(6) 'Ο λυκος τήν άντάρα θέλει.

狼は霧を望む。

のように、闇に乗じて悪いことをする狼のイメージが使用されている。不気味な悪党のイメージである。そして、信用の置けないものとしても、使用されている。それは、

(7) 'Ο λυκος πιστικός δέν γίνεται κι ό σκυλος τυροκόμος.

狼は誠実にはならず犬はチーズ屋。

のように、忠誠心の犬と比較されている。

また、

(8) 'Ο λυκος έχει τ' όνομα κι ή άλεποδ τά τρώγει (ή τή χάρη).

狼は名前を保持し、狐はそれを食べる。(或は喜びを)。

(9) 'Ο λυκος μέ μηνύματα ποτέ άρνί δέν τρώει.

狼は、命令されて羊を食べず。

(10) 'Ο λυκος κι άν έγήρασε κι άλλαξε τό μαλλί του, μήτε τή γνώμη άλλαξε, μήτε τήν κεφαλή του.

狼は、老いて髪の毛が変わったが、自分の考え方も頭も変えなかった。
などのように、狐と比較されて、悪党は悪党でも、誇り高き狼の姿も使用されている。
が、(10)は、それを通り越して頑固な石頭のイメージであろう。これは、特に悪い習慣を改めようとしないう頑固な変革のじょうのない者に対する比喩表現である。

そして、実力のある者はどこの世界でも、喚いたり騒いだりはしないようである。

(11) Ὁ λύκος πού δέν ἀλυχτάει λύκους τραβάει στό μαντρί.

吠えない狼は、ほかの狼を囲いに引っ張る。

このようにみると、狼は、全体的には、まず、「悪党」面をした狼のイメージを持っているようである。そして、(2)空腹でよく食べる、(3)悪仲間意識が強い、(4)誇り高い、(5)頑固なイメージで比喩表現を形成している。

2) γαῖδαρος「ろば」

ろばは日本では余り馴染みがないが、ギリシアではよく見かけられる。そして、よく働いている。諺でも、

(12) Ἡ γαῖδούρα σαράντα πουλάρια ἔκανε καί τό σαμάρι δέν τῆς ἔλειψε.

雌ろばは40頭の仔馬に等しく、荷鞍がその背にないことはなかった。

(13) Γαῖδούρι στόν κατήφορο, μουλάρι στόν ἀνήφορο καί ἄλογο στούς κάμπους.

下り坂のろば、上り坂のろば、野原の馬。

のように、(12)では、ろばは、非常によく働き、全てのことによく耐える。また(13)のように、ろばに限らず、動物も「適材適所」でよりよく人々の役に立つのである。

そして、次の諺は、ろばがいなくなると、働く手段がなくなるので、主人も働かなくなるというのであろうか。のんびりとしたギリシア的思考方である。

(14) Δεμένος ὁ γαῖδαρος, ἀναπαμένος ὁ νοικοκύρης.

ろばはやられ、主人は休む。

また、簡潔な隠喩表現で、

(15) Εἶναι γαῖδαρος.

(彼は)ろばだ。

(16) Ἐχει γαῖδουρινά μούτρα.

(彼は)ろばの額をしている。

のようなものがある。これは、頑固で無礼な人への比喩表現に使用されているようである。しかし、ろばの世界では、それは頑固で無礼なのであろうか、それとも忍耐という美徳なのであろうか。次のような諺もある。

(17) Ἐχει ὑπομονή γαῖδάρου.

(彼は)ろばの忍耐をもつ。

しかし、本当に忍耐強ければ、

(18) Δυό γαῖδαροι σέ μιά τάβλα δέν τρῶνε.

二頭のろばは一つの食卓で食はず。

と言うことにはならないであろう。同業者でもお互いに忍耐があれば憎み合うこともないであろう。(17)は、あまりはっきりしない忍耐をやゆして使われるようである。

外にも次のようなものがある。

(19) Ἄν ἔχει ὁ γάϊδαρος φωνή, γιά ψάλτη δέν τόν κράζουν.

ろばが声を持っていても、歌手としては呼ばない。

(20) Ὁ γάϊδαρος τό Μάρτη γκαρτζεῖ (χαίρεται γιά τό νέο χορτάρι).

ろばは三月に鳴く(新鮮な草に喜ぶ)。

(19)は、ろばが悪い声をしている事実(γάϊδαροςという語自体もよい響きを持っていない)を踏まえて、比喩表現が作られている。(20)も、新鮮な草に喜ぶろばの声が聞こえそうであるが、(19)と関連して考えれば、なんとなく春の美しさを台無しにしそうである。いや、それが牧歌的であればいいのかも知れない。

ろばは、全体的には、あまり良いイメージでは使用されていないようであるが、まとめると、(1)動き者、(2)忍耐強い、(3)頑固で無礼、(4)声の悪い動物として、比喩表現に使われている。

3) βώδι「牛」

雄牛はい見すると、力強くて少し恐い感じがするが、そのようなイメージで使用されているのが、次の諺である。

(21) Βώδι λαμνάτο ἀγόλαζε καί γάϊδαρο καμπούρη.

よく進む雄牛と瘤のあるロバを買え。

(22) Τό βώδι ἀπό τά κέρατα καί τό γάϊδαρο ἀπό τά πόδια νά φοβᾶσαι.

雄牛は角を、ロバは足を恐れなさい。

力強くてよく動く雄牛は人々の役に立ったのである。ただ、気を付けていなければ、角に引っかけられて危険な目にも合うであろう。

しかし、ギリシアの諺にみられる「雄牛」は、いま一つ力強さに欠けている。例えば、

(23) Τό βουβάλι κι ἄν γεράσει, τό πετόι του βώδι κάνει (ἀξίζει).

水牛は老いても、その皮は雄牛に等しい(値する)。

(24) Τό βουβάλι κι ἄν ξεπέσει πάλι ἀξίζει τό ἕνα βώδι.

水牛は衰えても一頭の雄牛に値する。

などと、水牛と比較されて、雄牛の値打が低く見られている。「大きくて強い者が良い」と言うギリシア人の価値観が窺える。

そして、次のような諺で、雄牛の価値は地に落ちる。ここでは次のような興味ある諺が見られる。

(25) Εἶναι βώδι.

(彼は) 雄牛だ。

(26) Τά ζῶα μου ἀργά.

私の動物は鈍い。

(25)の隠喩は、「馬鹿」を意味する。雄牛を馬鹿に喩えているのは意外な気もするが、次の諺にも雄牛の様子が表されている。その(26)には、「雄牛」は使われていないが、ここでは、語 ζῶα「動物」が特に雄牛の事を表しており、雄牛は馬鹿でのろまなイメージで使用されている。ただ、(21)~(24)でも見たように、雄牛のイメージとしては、(2)力強い、(3)役に立つ動物としても表現されており、ここでも、諺の世界に於ける「逆転」がみられ興味深い。

4) γάτα「猫」

日本語の表現にも、「猫被り」と言うのがあるように、ギリシアでも猫は爪を隠し持っているようである。例えば、

(27) Εἶναι γάτα.

彼女は猫だ。

(28) Καλός φίλος ὁ γάτος ἂν δέν εἶχε νύχια.

猫はもし爪がなければ良い友だ。

などのように、可愛く見える猫も、実は爪を持っていて、それで引っかかれれば、相当痛いであろう。(27)も簡潔な隠喩表現であるが、これらは、大人しく見えるが実は「爪を隠し持っている」女性に対して使われる。

また、次のように、犬と比較されて、猫の不誠実さが引合いに出されている。

(29) Ἡ γάτα στραβώνει τόν ἀφέντη της (δέν εἶναι πιστή σάν τό σκυλό).

猫は主人を盲にする(犬のように信頼できない)。

(30) Ἡ γάτα γνωρίζει σπίτι καί τό σκυλί ἀφεντικό.

猫は家を知り犬は主人を知る。

などと、(29)でも、犬と比べられて、猫は「犬のように信頼できない」と言うことで、「猫被り」に騙されてはいけないと言うことである。

鼠にとって恐い猫のイメージは、万国共通なのであろう。

(31) Ὅταν φύγει ὁ γάτος ἀπ' τήν τρύπα, πάλει ὁ παντικός τήν ἄλφα-βήτα.

猫が穴から逃げると、鼠はイロハを弾く。

また、次の諺では、猫は、執念深くなかなか死なず、しぶとく生き延びる代表として使用されている。

(32) Ἡ γάτα εἶναι ἐφτάψυχη.

猫は七生。

ちなみに、英語では "A cat has nine lives" であり、こちらがもっと執念深い。

まとめると、猫は、(1)「猫被り」(爪を隠し持ち、危険)、(2)不誠実、(3)弱い

ものいじめ、(4)執念深く、しぶといイメージで使用されている。

5) γουρούνι「豚」

今は日本でも、食卓に気軽に上り、食べては美味しい「豚」のイメージは、(1)汚い、(2)食欲、(3)良い母と少々強烈である。例えば、

(33) Τό γουρούνι λάσπη θέλει.

豚は泥を望む。

(34) Τό γουρούνι κι ἄν τό λούσεις τήν ἀλυσίβα θά χαλάσεις.

豚は洗えど灰汁(あく)を駄目にする。

(35) Εἶσαι νά φυλάς γουρούνια.

おまえは豚にくちづけすべきだ。

などと、泥にまみれた非常に汚い対象として出現する。泥を好んで、泥の中で生活をし、よく食べ太り、その汚い姿が人々からは嫌われている。

そして、

(36) Τό γουρούνι τόσο ἔχει τά βαλάνια ὅσο καί τά μοσχοκάρυθα.

豚はにくずくの実ほどたくさんどんぐりの実も持っている。

(37) Τρώει (ἢ ζεῖ κ.λ.π.) σάν γουρούνι.

豚のように食べる(或は生きる)。

などと、食欲によく食べる動物として使用されてる。豚のように何でもよく食べれば、きつと瘦せ瘦けた人生はおくらなくてすむであろう。

しかし、汚くても、子供達にとっては良い母である。

(38) Ἡ γουρούνα ὅταν ἔκανε γουρουνόπουλα οὔτε χυλό δέν χόρτασε.

雌豚が子豚をつくったときは乳首もいっぱいにならない。

かく、よく食べて、よく子供を産み、子供達にしっかりと食べさせる。母の鏡である。比喩的に良い母に対して言われる。

6) ἄλεπού「狐」

狐は、なんと言っても、ずる賢い動物の代表であろう。このようなイメージは、また日本でも馴染み深い。例えば、

(39) Πονηρή ἄλεπού.

ずる賢い狐。

と言うのがあれば、

(40) Ἡ ἄλεπού ἑκατό χρονῶν καί τ' ἄλεπούδια ἑκατόν δέκα.

狐は百才子狐百十才。

などと、ずる賢い狐より子狐はもっとずる賢いと表現される。しかし、さらに、狐たちよりもっとずる賢い者がいる。それは、

(41) Ἡ ἀλεπού εἶναι πονηρή ἀλλά πιδ πονηρός ἐκεῖνος ποῦ τήν πιάνει.

狐はずる賢いが狐を捕らえるものがもつとずる賢い。

(42) Μιά φορά ἐκίνησε ἡ ἀλεπού νά πάει στήν ἀγορά καί ἦτανε παζάρι.

ある時狐が市場に行くとき、バザーだった。

などと、表現されており、(42)にはさらに、*καί οἱ πονηροί τήν παθαίνουν* 「そして、ずる賢い人達が狐を殺す」と付け加えられている。かくして、人間が一番ずる賢いようである。

4. おわりに

以上、今回は、諺の中によく使用されている素材としての「動物」に焦点を当てて、それらの使用頻度から見られる特徴やその使用頻度から推論できる「動物」と民衆の結び付き方や関連の仕方を考察してみた。さらに、これらの動物たちがどのようなイメージで使用されどのような比喻表現に使用されているかも考察した。時間の関係で、この外の多くの諺に関しては言及できず、十分な考察ができなかったが、それなりの成果があったように思う。また、今回検討した諺以外の諺もまたの機会に考察してみつもりである。

なお、本稿は、第一回ギリシア語学・文学研究会（1989年7月 於 広島大学）で発表したものに加筆修正したものである。

参考文献

- 石垣幸雄、『世界のことわざ・1000句集』、自由国民社、1986
- 浮田三郎、「日本語と現代ギリシア語（方言）の諺対照比較研究—諺に見られる素材を中心に—」、『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』、広島大学教育学部、1988、pp.59-64
- 浮田三郎、「日本語とギリシア語の諺対照比較研究（4）—諺の中に使用されたる素材「動物」（1）—」、『広島大学教育学部紀要』、広島大学教育学部、1989
- 奥津文夫、『ことわざ・英語と日本語』、サイマル出版、1978
- 金子武雄、『日本のことわざ』（全4巻）、海燕書房、（一）評釈、（二）統評釈、1982、（三）評論、（四）概説・講説、1983
- 関本至、「現代ギリシア方言に見る諺の修辞法」、『レトリックと文体』（古田敏一編）、丸善株式会社、1983
- 尚学図書編集、『故事俗事ことわざ大辞典』、小学館、1982

外山慈比古、「渡る世間に鬼はない<ことわざと論理>」、『月刊言語』、Vol. 12,
No. 1, 1983, PP.30-35

Βενεζέλου, Ι., Παροιμίες του 'Ελληνικού Λαού, Φοιτητική Γνωιά, 'Αθήναι, 1985
Μιχαήλ, Μαρία-Δέδε, 2500 'Ελληνικές Παροιμίες (καί Λεγόμενα), Σπύρος Ν.
Μποριάτης, 'Αθήνα, 1981

Rohlf's, G., Italogriechische Sprichwörter in linguistischer Konfron-
tation mit neugriechischen Dialekten, München, 1971

Smith, William George; The Oxford Dictionary of English Proverbs,
The Clarendon Press, Oxford, 1952

Τριανταφυλλίδη, Μανόλη 'Α., Παροιμιακές Φράσεις από την 'Ιστορία και τή
Λογοτεχνία, 'Αθήνα, (年代不詳)

(SUMMARY)

A Study on Modern Greek Proverbs

-Proverbs in which the Element "Animal" Is Used-

Saburo Ukida

When we read the proverbs of Modern Greek, various metaphrical ex-
pressions are referred to, among which, proverbs in which elements
relating to "Animals", are both numerous and interesting. Animals in
human society play various roles; they are considered as friends, dan-
gerous enemies, are sometimes harmful and are sometimes the objects
of ridicule. Thus arising from a variety of meaning and viewed from
appropriate perspectives, they are used as metaphorical objects.

In the two collections of proverbs, Rohlf's, G., Italogriechische
Sprichwörter in linguistischer Konfrontation mit neugriechischen
Dialekten, München, 1971 and Μιχαήλ, Μαρία-Δέδε, 2500 'Ελληνικές Παροιμίες
(καί Λεγόμενα), 'Αθήνα, 1981, "Animals" have been widely used. Further-
more, when comparing Japanese and Greek proverbs, there is a richer
use of the element "Animal" in Greek.

In the former collection (of 500 proverbs), in the top 40 elements
ranked according to the frequency of use, 11 species of animals -
Goat, Donkey, Fox, Pig, Ox, Wolf etc. - have been used with a frequency

of over 6 times. In the latter collection, Μιχαήλ has commented that proverbs connected with animals in Greek are abundant and have been the objects of metaphorical expression to Greek folk. He has also enumerated proverbs using the element "animal". When we see the element "animal" from the highest frequency of use there, the ranking is: Wolf, Donky, Ox, Cat, Pig, Fox, Horse etc. (totaly 28 species). From this we can surmise what kind of animals are closely connected with the Greek people and in which they have interest.

Next, we have extracted from these proverbs, the kinds of metaphors and images projected, for example; Wolf: (1) Unscrupulous or Vicious (2) Hungry (3) Group consciousness in wrong doing (4) Proud (5) Stubborn / Donkey: (1) Hard working (2) Patient (3) Stubborn (4) Rude / Ox: (1) Strong (2) Stupid / Cat: (1) Has claws (Dangerous) (2) Ability to survive (Tenacious) / Pig: (1) Dirty (2) Greedy (3) Possesses good maternal instincts / etc. and the characteristic features thus could be observed.